

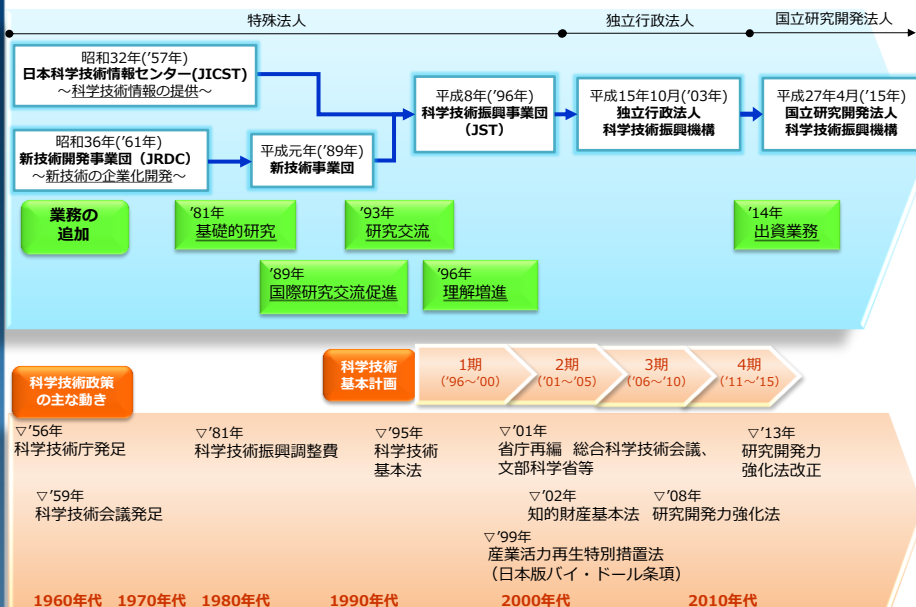
JSTのオープンアクセス方針と その実効性

国立研究開発法人科学技術振興機構
知識基盤情報部 水野充

2015 Wiley Executive Seminar
平成27年8月2日

Japan Science and Technology Agency

科学技術振興機構の沿革



Japan Science and Technology Agency

2

オープンアクセスに関するJSTの方針 論文におけるオープンアクセスの定義と必要性

◆ オープンアクセスの定義（平成24年7月『有川委員会』※に依る）

学術情報をインターネットから無料で入手でき、技術的、法的にできるだけ制約がなくアクセスできるようにすること

◆ オープンアクセスの意義と必要性

学術研究の成果は、そもそも人類共通の知的資産として広く共有されることが望ましい。また、特に、公的助成を受けた研究成果については、広く国民に知らされ、利活用されるべきものである。（中略）利用者側が費用負担を伴わず制約なしで研究成果に接することを可能にするオープンアクセス化を進めるべきという考えが世界的な流れになっている。

※（平成24年7月文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会（有川委員会）「学術情報の国際発信・流通力強化に向けた基盤整備の充実について」より）

JSTのオープンアクセス方針を策定

JSTのオープンアクセス方針

2013年4月に公開したJST OA方針

「オープンアクセス化は、公的助成を受けた研究の支援と成果の透明性を把握するとともに、研究成果を広く国民に発信・流通させ、研究者と国民との科学技術コミュニケーションを推進し、新たなイノベーションの創造に貢献するために不可欠」

対象	方針	方法	公開する文書の 内容	保管先	エンバゴ	費用
JSTの研究費で 推進される 研究課題において 得られた 学術論文等の 研究成果	グリーンを 基本として ゴールドも 許容	グリーン	著者最終原稿等	各所属機関のリポジトリを利用することを基本とするが、リポジトリを有しない等の機関にはJSTが運営するリポジトリ等の準備を検討する	1年以内程度	
		ゴールド	出版社版	オープンアクセスジャーナル（オープンアクセスを前提とした出版物に論文を発表することにより対応することも可能）	即時	研究費からの支出を認める

募集要項において、機関リポジトリあるいはオープンアクセスを前提とした出版物で公開することを推奨する旨を記載

オープンアクセス方針の実効性

◆ 研究成果論文のトラッキング

ファンドを受けた研究成果である論文の発表状況を
どうやって把握するか？

- 研究報告書における成果一覧
- 既存のデータベース
 - ・ 論文中の著者所属機関
 - ・ 論文中の謝辞
- FundRef

万能の手法・ツールは現状存在しない。
当面はこれらを複合させて状況を把握

オープンアクセス方針の実効性

◆ 全文アクセスの実現

- 機関リポジトリ
- ゴールドOA

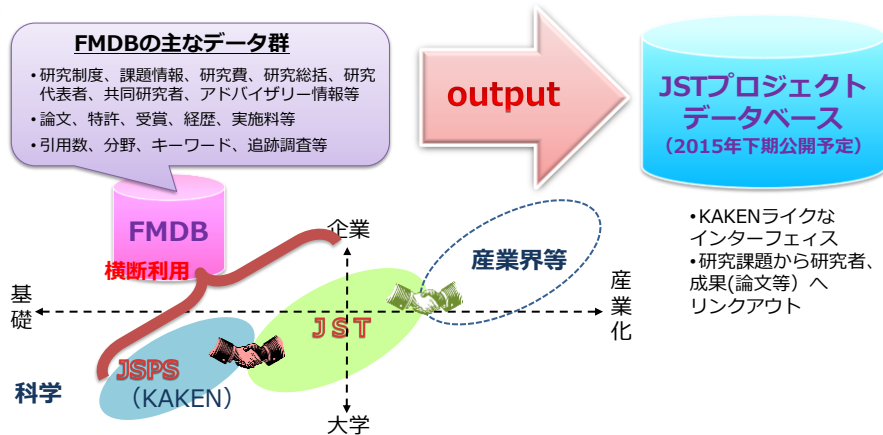
100%ゴールドは事実上不可能
グリーンOAにどこまで実効性を持たすことができるか

- 大学図書館との包括的な連携
- 出版者と連携した新たな公開方法(Chorusライクな)

Funding Management DataBase (FMDB) と JSTプロジェクトデータベース (仮称)

目的

- ✓ 我が国の基礎研究(科研費・戦略事業等)情報・成果の把握及び公開と事業への実装
- ✓ 政策・施策・事業の企画・立案・運営・評価等の各段階に渡る土台(エビデンスベース)作り



Japan Science and Technology Agency

7

まとめ

- ◆ **OAポリシーの実効性を上げるためには**
→論文発表のトラッキングからオープンにするまでの一貫したしくみが必要
- ◆ **FundRefを中心とした発表論文情報の把握**
→論文投稿時にFundRefへ情報記載するよう周知
FundRefを活用しJSTファンド論文のタイムリーな抽出・把握
- ◆ **機関リポジトリと連携したグリーンOAの推進**
→JSTファンド論文情報をリスト化、機関リポジトリ推進委員会等と共有し
大学図書館から研究者へアプローチし機関リポジトリへの登録をサポート
- ◆ **DBの整備と公開**
→JSTファンドのみならずオールジャパンへの広がりを

Japan Science and Technology Agency

8

ご清聴ありがとうございました。

* 本講演に関し、開示すべき利益相反事項はありません。